

## 政治学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

### 教育研究上の目的

法学部政治学科は、政治学に関する学識を修め、専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とする。

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

政治学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（政治学）の学位を授与する。

#### 1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 国際機関・国・地方自治体などの政策の意図と内容を正しく把握することができる。
- (2) 地域の問題から国際社会の課題にいたる様々なレベルにおける政治の動きを理解することができる。
- (3) 在学期間を通じて獲得した語学力や諸分野の知識と理解を活用し、様々な分野で活躍・貢献できる力を身につけている。
- (4) 幅広い分野において習得した知識と理解を他者に伝えて議論するために必要な技能を身につけている。

#### 2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 修得した専門的知識と技能をもって、地域社会、国家、国際社会における課題を自ら発見するために必要な思考力や判断力を身につけている。
- (2) 修得した知識を活用しながら、科学的アプローチに基づき、政治現象を分析する能力を身につけている。
- (3) よりよい政治や社会のあり方について、広い視野に立って自分とは異なる意見を持つ人とも議論することができる。

#### 3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 修得した専門的知識と技能をもって自ら発見した地域社会、国家、国際社会における諸課題の解決に取り組むことができる。
- (2) 修得した専門的知識のみならず、語学力や諸分野の知識と理解を深め続けることにより、人間性を尊重する態度を養うことを意識しながら、身近な人のみならず見知らぬ人を助けようとすることができる。
- (3) 様々なことについて広く学び続けることを通じて、あるべき地域社会、国家、国際社会を模索し続けることができる。

#### 4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 地域社会、国家、国際社会において、性、人種、国籍、信条、年齢、身体的特徴などの多様性を認め、多文化共生の実現に寄与しようとするすることができる。

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

政治学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

## 1. 教育内容

- (1) 共通教育においては、必修科目「政治学」と「憲法」の履修を通して、政治学を学ぶ上で必要な基礎概念や社会の仕組み、現代日本政治についての基礎知識を学習するとともに、政治という分野そのものに関する知的好奇心を深める。
- (2) 1年次から、「政治外交史」に関する専門科目として「西洋政治外交史」、「日本政治外交史」、「東洋政治外交史」を履修できる。また、海外の「地域」に関する専門科目も履修可能にし、時代と地域によって多様な姿をもつ政治の実態についての知識や関心を広げる。
- (3) 1年次から、「法律学系列」「経済学系列」「情報学系列」の科目を履修できる。政治を学ぶ上で重要な分野に関する知識を身につける。
- (4) 2年次からは、「理論」に関する専門科目として「現代政治理論」と「政治過程論」、「行政」に関する専門科目として「地方自治論」と「現代行政のイシュー」、そして幅広いテーマを取り扱う「展開政治学」として「西洋政治思想史」、「日本政治思想史」の科目を履修できる。「海外地域政治研究」とあわせ、地域社会から国内政治、国際社会に至るさまざまなレベルにおける政治の動きに対する理解を深め、自らの関心のある専門分野を発見する。
- (5) 3年次からは、「国際」に関する専門科目として「国際政治学」と「国際関係論」、および「行政」に関する専門科目として「行政学」と「公共政策論」を履修できる。このほか、「展開政治学」として「東洋政治思想史」、「政治文化論」、「比較政治学」、「都市政治論」の各科目、および「法律学系列」「経済学系列」「社会学系列」「情報学系列」の諸科目においても、さらに広範な知識を身につけることができる。
- (6) 必修科目の「英語」及び選択科目の「ドイツ語」・「フランス語」等の履修を通して、外国語の習得に対する意欲を深め、外国語によるコミュニケーション能力を育成する。
- (7) 政治学に関連して哲学、心理学や自然科学等の諸分野の科目を履修することによって、より深くより広く社会を理解し、世界の未来像を描く能力を育成する。

## 2. 教育方法

- (1) 「入門演習」においては、自分の考えを他人に伝え、意見交換する能力を身につけるとともに、レポートの作成を軸として、大学での「学び」に必要な文章力をはじめとする技能を習得する。
- (2) 2年次に設置されている「基礎演習」や「現代政治のイシュー」（政治学現地研修）で、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた教育方法により、少人数で議論しながら学習を進めることで、自分と異なる意見に触れるとともに、自分の意見を他人に伝える能力をさらに高める。
- (3) 3・4年次の「専門演習」では、自らの関心のある分野についての学びを深め、他人との意見交換を通じて多様な課題を発見し、分析し、その解決に取り組む能力を身につけるとともに、その成果を他人に報告し、書き表す能力を養う。

## 3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、政治学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の測定結果を用いるものとする。
- (2) 2年次から3年次に進級するにあたり、最低取得単位を設けることにより、最低限必要な知識を習得しているかを判断する。
- (3) 専門演習を担当する教員は、当該演習の履修学生が学修した成果について論文、レポートなどの方法により評価を行う。

**入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）**

政治学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

**1. 知識・技能**

(1) 政治学を学ぶのに必要な社会科系科目の内容に興味を持ち、十分な学力を身につけている。

**2. 思考力・判断力・表現力**

(1) 知的好奇心を持って、社会の仕組みについて考えることができる。

(2) 自分の考えていることを他人に伝えたり、意見交換しようとする努力ができる。

(3) 自分の考えを伝え、他人の考えを理解するために必要な文章力を身につけている。

(4) 現象を多面的、多角的に捉え、迅速かつ的確な判断を下すことができる。

**3. 主体的に学習に取り組む態度**

(1) 自身の住む地域から世界の政治や社会の動きまで幅広い関心を持っている。

(2) 外国語や周辺諸分野の学修にも意欲的で、文化や生活習慣の壁を乗り越え、活躍できる。

**政治学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表**

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 <small>※選抜方法は入試方式で異なる</small>	学力試験			
	英語民間試験スコア	●		
一般選抜 (英語民間試験活用総合評価型)	英語民間試験スコア	●		
	課題		●	●
	調査書 等	●		●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 <small>※選抜方法は入試方式で異なる</small>	調査書 等	●		
	課題	●	●	
	小論文		●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接		●	●